

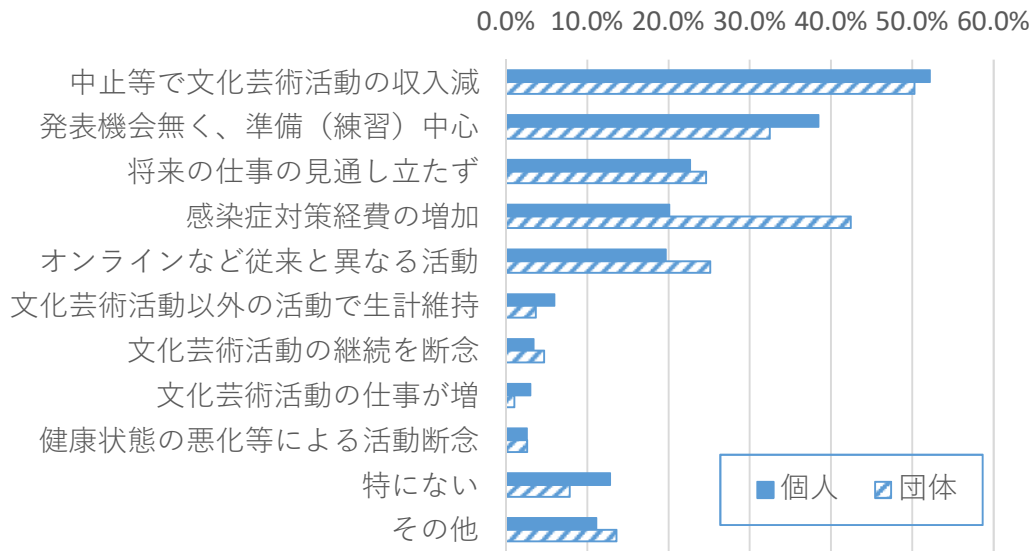
文化芸術活動に関するアンケート調査結果 結果概要

愛知県で文化芸術に携わる方の新型コロナウイルス感染症の影響、現状の活動状況、課題等についてアンケート調査を実施

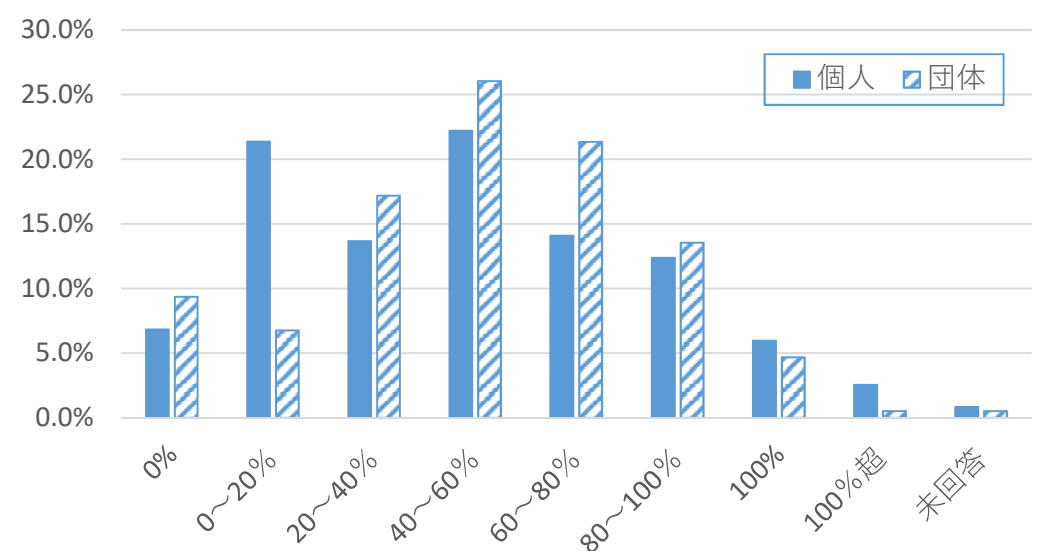
- ・期 間 2021年11月1日～2021年11月30日（インターネット調査、郵送）
- ・対象者 愛知県に居住または活動拠点を持つ文化芸術関係者（個人、団体・施設）
- ・回答数 426件（個人234件、団体・施設191件、無回答1件）

○新型コロナウイルス感染症の影響

文化芸術活動への影響の有無（複数選択可）



コロナ禍前と比べた文化芸術の活動状況（2021年度上期）

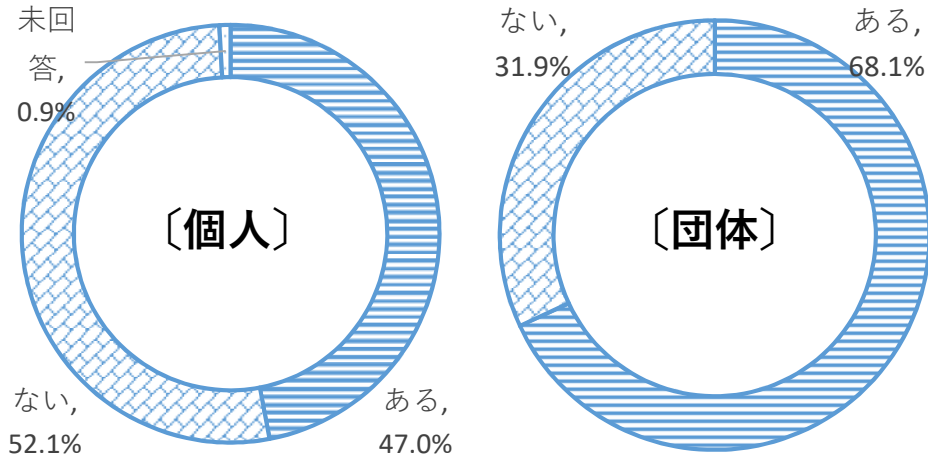


- ・個人、団体共に「仕事の機会減少・収入減」が最多。
- ・個人は「やむなく練習・準備活動に専念」、団体は「感染対策経費への負担」が大きくなっている。
- ・コロナ禍前（2019年度上期）と比べた2021年度上期の文化芸術の活動状況は、団体は「40%～60%」が最多であるのに対し、個人は「40%～60%」・「0%～20%」が多くなっている。

- 〔文化芸術関係者の声〕
- コロナ対策にかかる負担増（経費増、収入減、赤字前提の公演実施、業務量増、終演時間制限、客数減による収入減）
 - 練習会場の確保困難（密を避けるため広いスペース確保・練習回数増、通常と異なる稽古場利用による経費増、安定的な稽古困難）
 - 委託側の予算減による、受託金額・契約期間の見直し
 - 会場費負担（公演中止でも会場費満額）や準備経費の負担（案内物の作成・発送に伴う出費がある一方、展覧会中止により収入無し）
 - オンラインでの業務量増による収入増

○助成制度の活用状況

助成制度の活用の有無

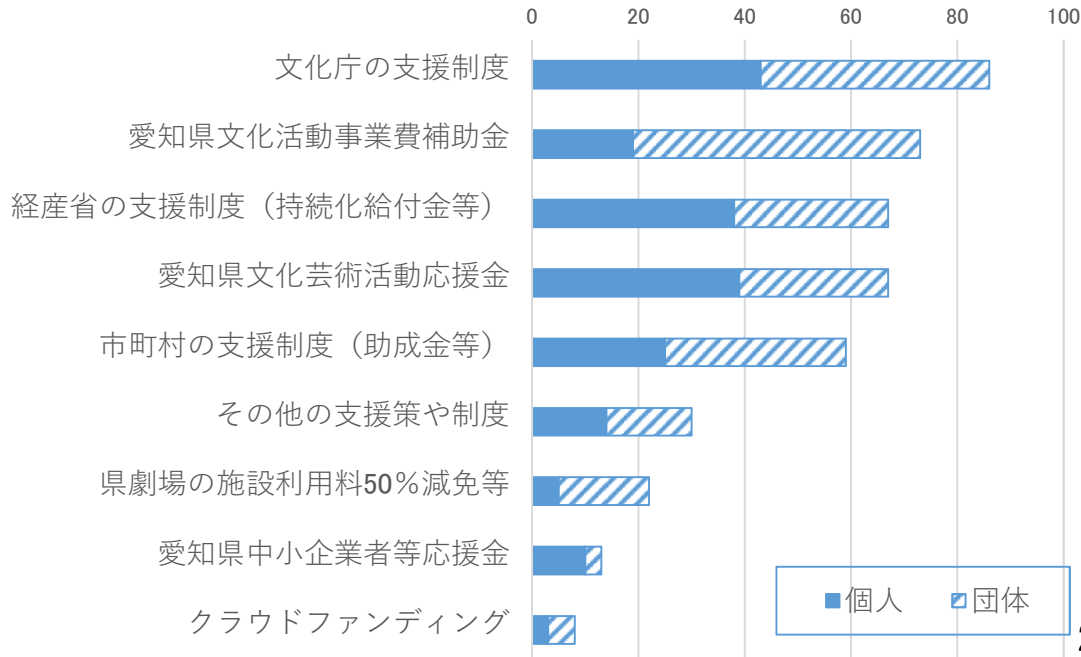


- ・文化庁の制度利用が、個人、団体共に最多(個人43、団体43)。
- ・愛知県の制度(文化活動事業費補助金、文化芸術活動応援金)の利用者も次いで多い(補助金 個人19、団体54/応援金 個人39、団体28)。中小企業者等応援金の利用者は少ない。(個人10、団体3)
- ・助成制度を活用していない理由においては、「情報を知らない」が71(個人51、団体20)で最も多く、次いで「必要ない」が68(個人46、団体22)、「手間が大きい」が43(個人28、団体15)となっている。

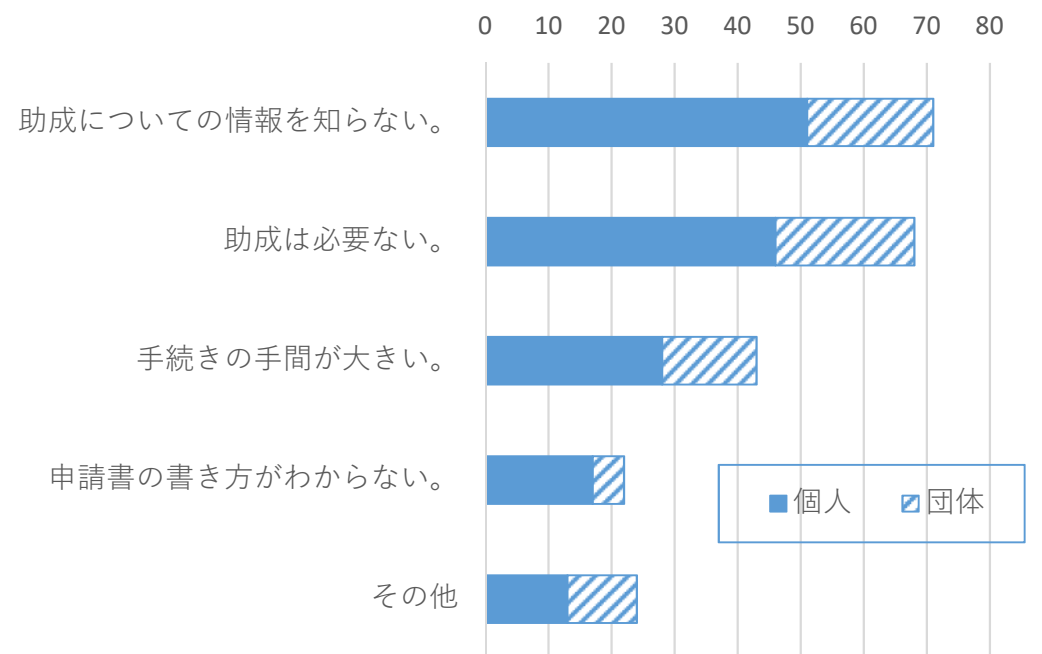
〔文化芸術関係者の声〕

- 助成金の支援制度の継続・充実 (コロナ影響からの回復には継続的な支援が必要、文化芸術に関する補助金が減額)
- 制度改善 (事業に併せ運営助成が必要、企画制作・マネジメント等の人件費、文芸費、出演者報酬、材料購入費も助成対象に)
- 公共施設の減額継続、稽古会場の借用申請の受付時期の前倒し
- 支援には感謝、制度が複雑で限定的、過度な書類提出を求めない

コロナ禍で利用した支援策 (複数選択可)

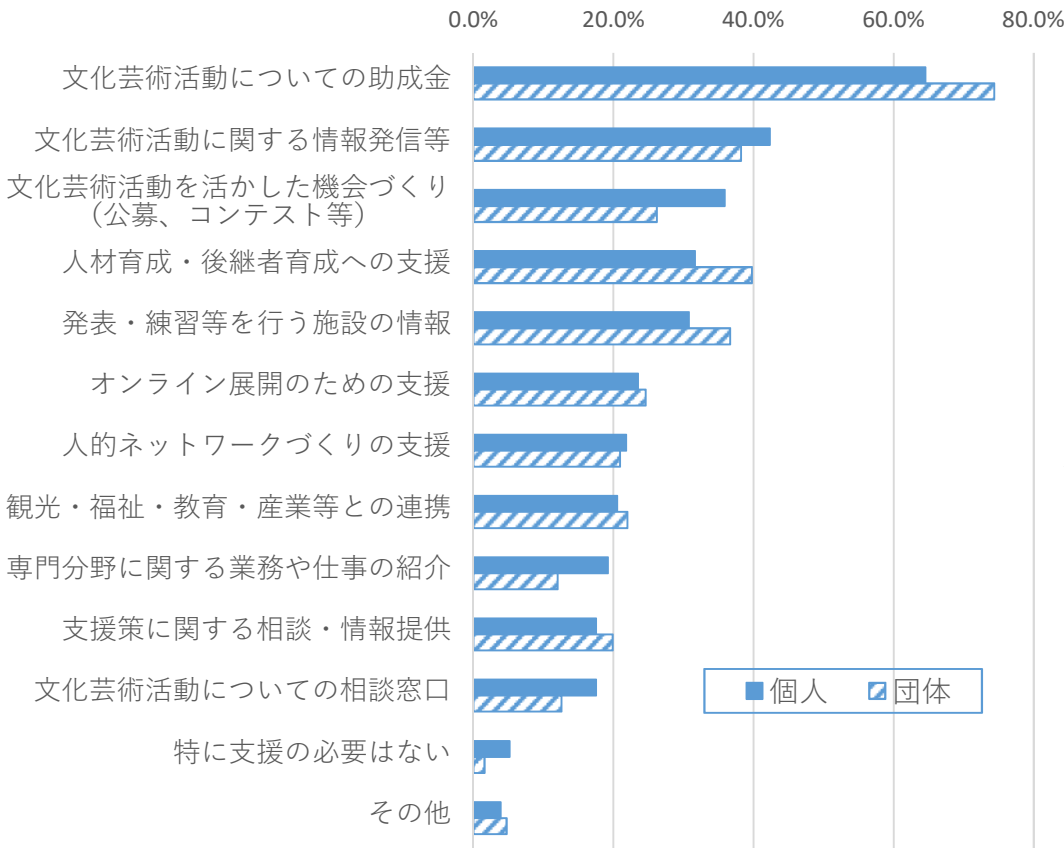


助成制度を活用していない理由 (複数選択可)

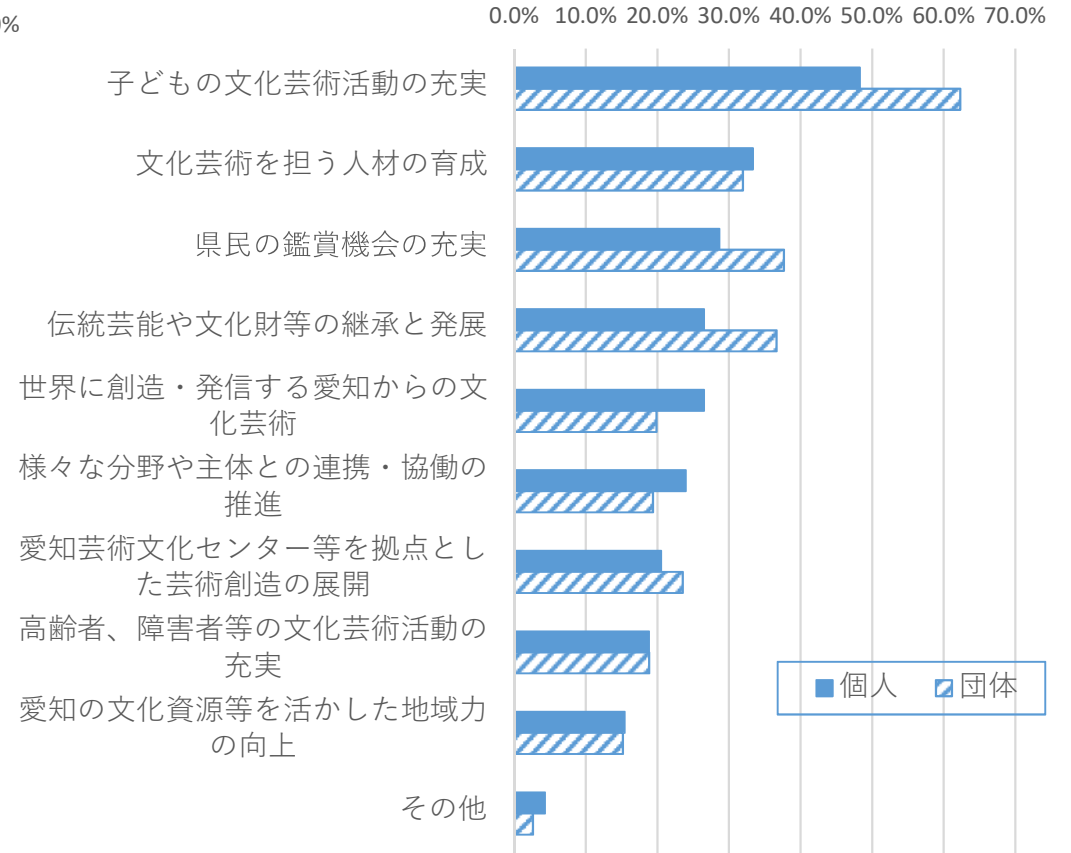


○今後取り組むべき課題

文化芸術活動において必要な支援策（複数選択可）



今後、県が取り組むべき課題（3つまで選択可）



- ・助成金の支援要望が個人・団体共に最多。(個人151、団体142)
- ・**個人は、“②情報発信等”、“③発表機会”**の順であるのに対し、**団体は“②人材育成・後継者育成”、“③情報発信等”**となっている。
- ・県が取り組むべき課題は、「子どもの文化芸術活動の充実」「文化芸術を担う人材育成」「伝統文化や文化財等の継承・発展」など、**文化芸術活動の継続、将来的な発展を視野に入れた課題への支援充実**を望む声が多い。
- ・**鑑賞機会の充実**に関する要望も多い。

〔文化芸術関係者の声〕

- 未来を担う子供達が、本物の音楽、美術などに接する機会の確保
- 世界への発信に併せ、県内の多くのアマチュアや、文化芸術活動で生計を立てているプロへの支援
- 障害者の芸術作品制作・公開支援
- 市町村の文化団体・会場への支援を通じた発表機会の確保
- 愛知は文化芸術振興のため様々な分野を連携し取り組んでいる、今後も継続的な支援を期待
- 発表するホールが少ない。文化活動施設の充実を期待